

盛川水系

河川整備計画

平成17年3月  
岩手県



## 第 1 章 河川整備計画の目標に関する事項

### 第 1 節 流域及び河川の現状

盛川は、岩手県大船渡市<sup>おおふなと</sup>に位置し、その源を五葉山<sup>ごようざん</sup>（標高 1,351m）に発し、山間部を南東に流れ、途中、鷹生川<sup>たかご</sup>、立根川<sup>たっこん</sup>、中井川<sup>なかい</sup>を合流しながら大船渡市街を貫流し、大船渡湾に注ぐ流域面積 129km<sup>2</sup>、流路延長 17km の二級河川である。

河川勾配は、盛川合流点より上流の鷹生川で約 1/40、長安寺橋付近で約 1/150、中下流部で約 1/200～1/500 となっている。河川幅は鷹生川で約 20m、長安寺橋より下流で約 50m～170m となっている。

流域の約 80%は山林で占められ、盛川の下流部では、大船渡市の市街地が形成されている。

#### 第 1 項 治水対策

盛川は、古くより度重なる洪水被害に見舞われており、昭和 22 年のカスリン台風及び昭和 23 年のアイオン台風を契機に、局部改良事業・中小改良事業により盛川下流部の整備を行い、昭和 49 年からは広域基幹河川改修事業（旧中小河川改修事業）として中流域の築堤等を実施してきた。

その後、昭和 52 年、昭和 54 年、昭和 56 年、昭和 61 年に比較的大きな被害が生じた。特に昭和 52 年の発達した低気圧により、浸水家屋 354 戸、浸水農地 40ha、被害総額 1,193 百万円、昭和 54 年の台風 20 号により、浸水家屋 187 戸、浸水農地 26ha、被害総額 973 百万円等大きな被害が発生した。

現在は、中小河川改修事業の継続と盛川総合開発事業により概ね 100 年に 1 回程度の確率の降雨で発生する河川の流量に対し、本川の河道拡幅、築堤および洪水調節施設（鷹生ダム）等を実施している。

このような治水事業により、流域の治水安全度は全体的に向上しているものの、中流域の長安寺橋上流付近では流下能力が低く、いぜんとして洪水の危険度が高いため、河川改修が必要となっている。

また、大船渡市は、これまで三陸地震津波やチリ地震津波などの大津波に遭い、多大な被害を被ってきた。なかでも、昭和 35 年 5 月 24 日のチリ地震津波は、死者・行方不明者 53 人、住家の全・半壊および流失は 1,104 戸、被害総額 80 億円と、大災害となった。

その対策として河口部に T.P.3.40m の津波堤防が造られた。

#### 第 2 項 河川水の利用

河川水は大船渡市の耕地等に対する水源として広く利用されている。

盛川水系の流況は比較的良好なもの、昭和 48 年および平成 6 年などの渇水時には、河川流量が減少し、農業用水不足の被害に見舞われた。

また、生活の高度化に伴う水需要の増大が予想され、渇水時においても安定的に水を供給で

きる新たな水源の確保が望まれている。

現在、新規水道用水確保のために鷹生ダムが建設中である。

### 第3項 環境

盛川は、最下流の大船渡市における緑地利用にはじまり上流へ行くほど自然度が高まる、河川沿いの自然環境が豊かな河川である。

盛川水系の自然環境は、大きく、渓流域の様相を呈しながら五葉山山系のイヌブナ林を流れる鷹生川上流域、オニグルミの河畔林が見られる盛川上流や鷹生川下流域、河道内をツルヨシが覆う盛川中・下流域、立根川や中井川、感潮域でありヨシ原が広がる盛川河口域に分けられる。

鷹生川上流域は、溪流の後背山地と河畔林が連続し、落葉樹を主体としたこれらの樹林から供給される豊富な餌資源に支えられてイヌワシ等の高次消費者やニホンジカ等の大型哺乳類が生息している。また、豊かな河畔林は、イワナ・ヤマメ等の溪流性の魚類を育み、これを目当てに訪れる釣り人も多い。なお、最上流域の五葉山周辺は県立自然公園になっている。

鷹生川下流域や盛川上流域は、やや平地に移行し流れが緩やかになるものの渓流域の様相を呈し、オニグルミの河畔林が発達し川面に陰を落とす。陸域と水域の間にこのような河畔林が発達しているため、ニホンジカやタヌキ等の中・大型の哺乳類が出現する。また、緩やかな流れを反映して、ヤマメやイワナ等の溪流魚のほかアユも多く生息しており、釣りシーズンには多くの釣り人が訪れる。

盛川中流域は、河原にツルヨシが繁茂するやや単調な環境であるが、水域は早瀬や平瀬、淵、とろ等、多様な流れを見せる区間で、淵にはそれぞれ名前が付けられる等、住民の利用も多様で活発である。特に、長安寺橋の上流は、岩が露出したゲンキョと呼ばれる淵の下流に、白波を立てる早瀬があり、特徴のある景観が地元住民に親しまれている。瀬では、アユ等の瀬を好む魚類とそれを狙うミサゴやカワセミ等の水辺の鳥類が、淵では、ウグイ等が見られる。特に、ナメタラ淵は本水系最大の淵であり、多くの魚類が生息している。また、ツルヨシが繁茂する河原は、昆虫類や小動物の生息環境となり、これを狙ってキツネやイタチ等が現れる。特に、ナメタラ淵周辺は山付き区間であり、これらの中型哺乳類のほか、ツキノワグマ等の大型哺乳類も水飲み等のため現れる。

盛川下流域は、河川敷がグラウンドとして活用される等、人の積極的な係わりがある区間であるが、ツルヨシの群落やヤナギ林なども多く、こういった環境を生息域とするイタチやタヌキのほか、時にはニホンジカ等の大型哺乳類も水を飲む等のために現れる。特に、佐野橋の上流はやや自然性が高く、ガマやミクリが生育するワンドや、イタチの巣穴があるヤナギ林等、河道内に多様な環境が成立している。

また、河口域では、汽水の緩やかな流れであることから、ヨシガモ等のカモ類が生息するほか、ボラやヌマガレイ等の汽水魚が多く生息する。特に、佐野橋付近には、ヨシ原が広がり、良好な景観を形成しているほか、オオヨシキリや多くの魚介類に生息と繁殖の場を提供してい

る。さらに下流の右岸には干潮時に干出する若干の干潟があり、アオサギやダイサギをはじめとするサギ類やシギ類が採餌のために飛来している。また、干潟では、コアマモが生育するが、干潟環境で生育する海草は本種のみであり、岩手県内でも宮古湾以外では生育しないとされていることから、貴重である。

河川の水質については、「生活環境の保全に関する環境基準」で A 類型に指定され、現状の水質では、いずれの観測地点（権現堂橋、佐野橋、川口橋）においても BOD75%値は環境基準を満足している。

## 第2節 計画対象区間

河川整備計画の対象区間は、盛川水系の岩手県知事管理区域とする。

### 計画の対象とする河川

水系名	河川名	対象区間	指定延長(m)
盛川	盛川	大船渡市日頃市町字田代屋敷 ～ 河口（大船渡湾）	10,800
	鷹生川	大船渡市日頃市町字甲子～盛川合流点	7,309
	立根川	大船渡市立根町沼田～盛川合流点	4,000
	中井川	大船渡市猪川町字善蔵敷(右岸)、 赤崎町字中井(左岸)～盛川合流点	1,000

## 第3節 計画対象期間

河川整備計画の対象期間は、概ね20年間とする。

## 第4節 整備計画の目標

### 第1項 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

盛川の長安寺橋付近から下流部では、流域内の人口及び資産や県内のバランス等を勘案し、昭和52年5月洪水、昭和54年10月洪水等の既往洪水を踏まえ、概ね100年に1回程度の確率の降雨で発生する河川の流量に対して洪水被害を防止する。

また、盛川の長安寺橋付近では、概ね50年に1回程度の確率の降雨で発生する流量に対して洪水被害を防止する。

### 第2項 河川の適正な利用及び流水の正常な機能に関する事項

概ね10年に1回程度起こる渇水時においても流水の正常な機能の維持を図る。流水の正常な機能を維持するためには必要な流量については、利水の現況、動植物の保護等を考慮し、権現堂橋地点で約0.96m<sup>3</sup>/sとする。

また、新規水道用水にも配慮する。

### 第3項 河川環境の整備と保全に関する事項

河川環境の整備と保全に関しては、水と緑が織りなす現状の良好な景観と動植物の多様な生育・生息環境の保全に努める。

ダム建設工事にあたっては、周辺の自然環境への影響及び工事に伴う影響を最小限として、自然環境の保全に努めるとともに、ダム貯水池周辺の整備にあたっては、地域住民の意見を反映しながら、自然環境との調和を図ることとする。

河川改修工事にあたっては、周辺環境の現状把握を行い、地域住民の意見を反映しながら、河川や自然環境への影響及び工事に伴う影響を最小限として、動物が河川沿いを利用するための空間として河畔林の連続性の保全に努めるとともに、ゲンキョ淵や早瀬を保全することにより水域環境の多様性を維持し、豊かな動植物相を確保することに努める。

また、河川断面や構造物の設計は、自然環境に配慮した緑化を図るなどの多自然型工法を取り入れ、水の流れや水と緑の香りを感じさせる水辺空間の整備を図り、人々が水辺に親しみやすい改修を行い、人と自然とが共生できる河川環境の創出に努める。

河川水質は、BOD 値が環境基準を満足しているものの、大腸菌郡数の環境基準の超過が問題として残る。今後とも河川環境の保全と巡視や流域住民に対する啓発を行うとともに、官民一体となり、良好な河川環境の維持と保全を図る。

## 第2章 河川整備の実施に関する事項

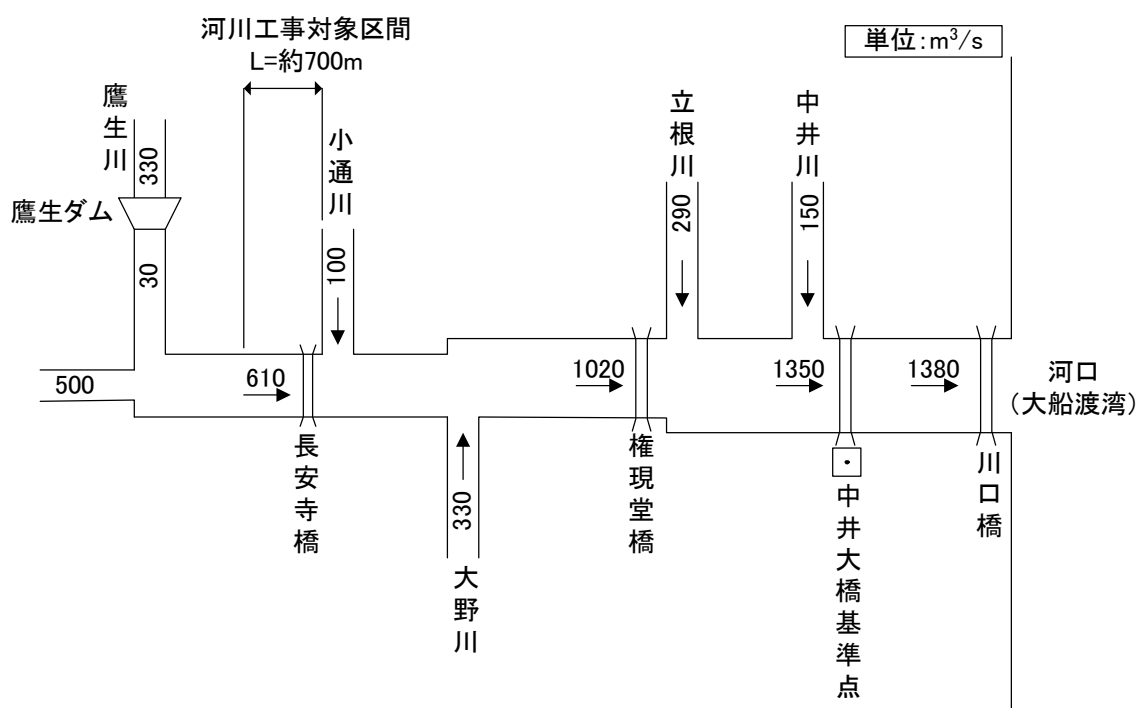
### 第1節 河川工事の目的、種類及び施工の場所並びに当該河川工事の施工により設置される河川管理施設の機能の概要

- (1) 大船渡市日頃市町字中甲子地先において河川の流量を調節するため鷹生ダムを建設し、中井大橋地点における概ね100年に1回程度の確率の降雨で発生する流量 $1,510\text{m}^3/\text{s}$ を $1,350\text{m}^3/\text{s}$ に低減する。

また、鷹生ダムにより新規水道用水の確保を行うとともに、概ね10年に1回程度起こる渇水時においても、流水の正常な機能の維持に必要な流量を確保する。

工事の実施にあたっては、環境影響評価を実施し、特に猛禽類については工事による影響を極力軽減し、その生息環境の保全に努める。

ダム貯水池周辺の整備にあたっては、広く地域住民の意見を反映しながら行う。

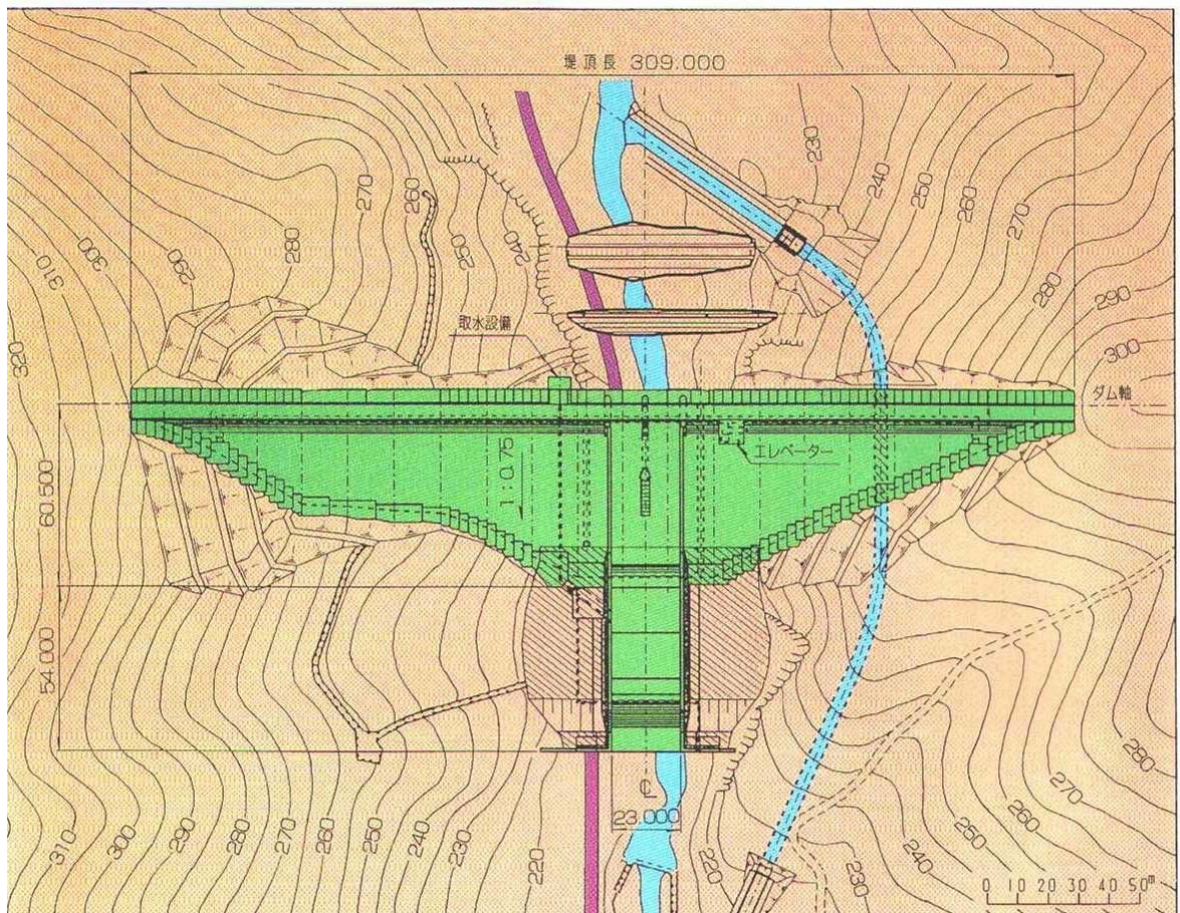


流量配分図(1/100)



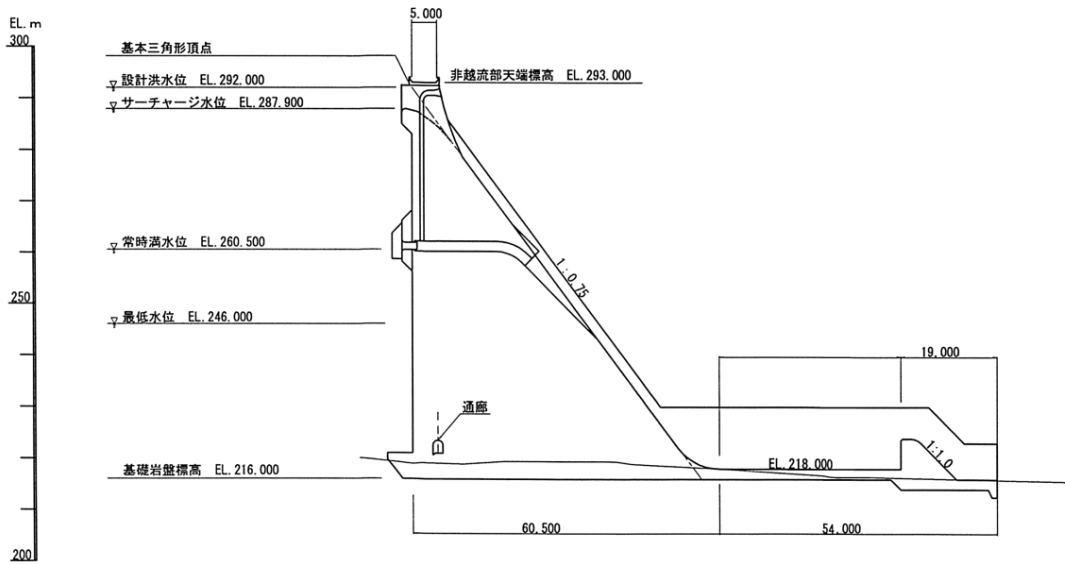
(鷹生ダム)

位 置 : 岩手県大船渡市日頃市町字中甲子  
形 式 : 重力式コンクリートダム  
堤 高 : 77.0m  
堤 頂 長 : 309.0m  
総貯水容量 : 9,680,000m<sup>3</sup>  
湛水面積 : 0.39km<sup>2</sup>  
設置目的 : 洪水調節、  
流水の正常な機能の維持に必要な流量の確保  
新規水道用水の補給



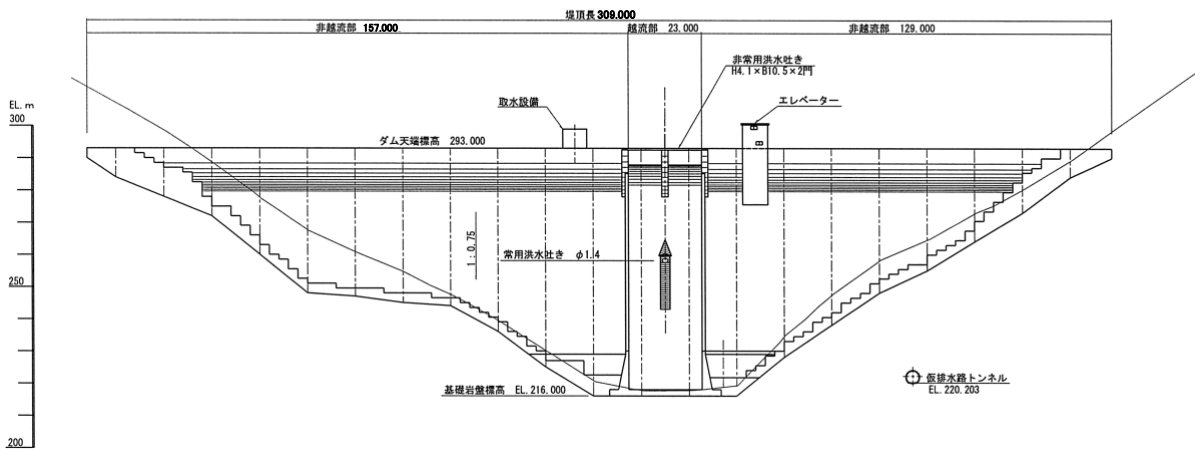
平面図

越流部標準断面図



堤体標準断面図（越流部）

ダム下流面図

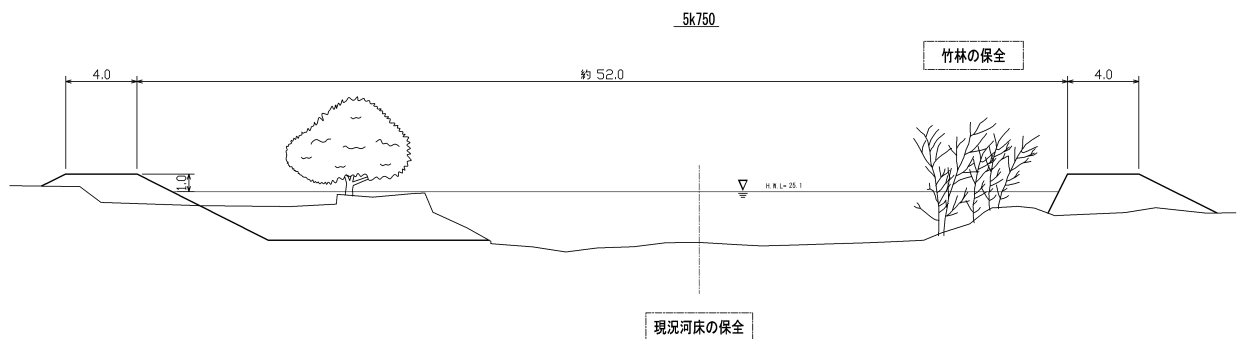


ダム下流面図

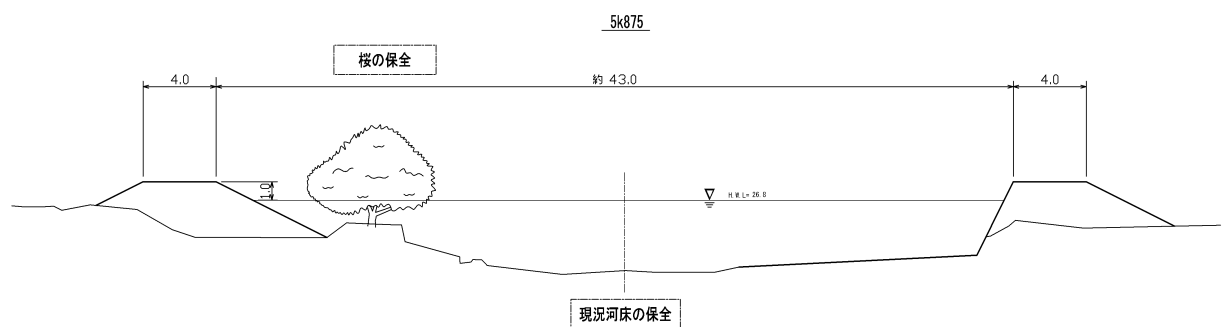
(2) 長安寺橋付近の改修は、災害の発生頻度と予想される被害状況等を勘察し、概ね50年に一回程度の確率の降雨で発生する河川の流量を対象とし、長安寺橋付近の家屋浸水や耕地の被害を軽減する。

また、改修にあたっては、周辺環境の現状把握を行い、景観、生物等に配慮し、広く住民の意見を採り入れながら自然環境の保全に努めるほか、水辺に親しみやすいように親水性に配慮した改修を行う。

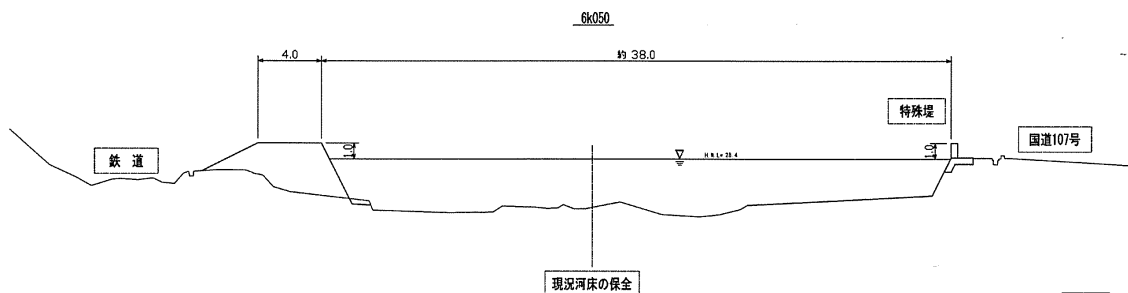
長安寺橋上流 約100m 付近



長安寺橋上流 約200m 付近



長安寺橋上流 約400m 付近



## 第2節 河川の維持の目的、種類及び施工の場所

### 第1項 河川管理施設の維持

堤防、護岸及びダム等の河川管理施設の機能を維持し、河道の所定の流下能力を確保するために、河川管理施設等の点検及び河道の巡視を行い、必要に応じてその維持修繕、堆積土の除去、立木の伐採等を行う。

## 第3節 その他河川管理を総合的に行うために必要な事項

### 第1項 洪水時における対策

洪水時における被害の最小化を図るため、以下のことを行う。

地元自治体に対して洪水ハザードマップ（避難地及び避難経路等を明示）作成・公表等の支援を行う。

出水時は、水防活動や避難路の確保に資する降雨、水位情報等の提供を行う。

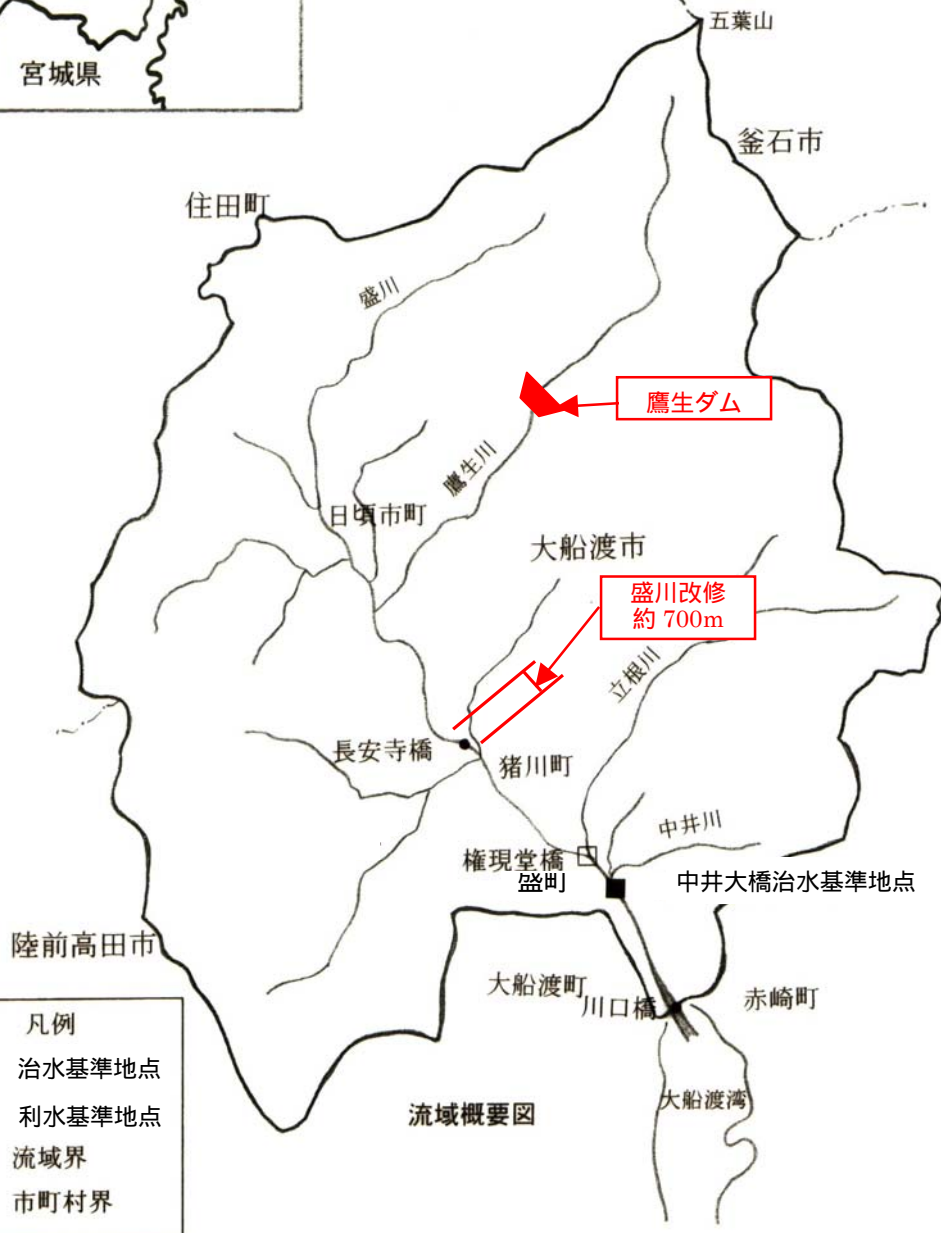
### 第2項 河川情報の提供、流域における取り組みへの支援等

盛川流域の豊かで多様な自然と、歴史と文化にあふれ、活力ある良好な地域特性を将来へ引き継いでいくためには、地域住民の理解と協力が不可欠である。

このため、河川に関する情報を地域住民に幅広く提供するとともに、河川愛護思想の定着と啓発に努め、住民参加による川づくりや河川の清掃等の活動を支援する。



盛川流域	
流域面積	CA=129km <sup>2</sup>
流路延長	L=17km



凡例	
■	治水基準地点
□	利水基準地点
—	流域界
- - -	市町村界

流域概要図